



ぞうさん広場 Vol. 33

特集

高齢者医療管理センター



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

高齢者医療管理センター

多職種が連携して対応する高齢者医療の新しい取り組み



Interview

おおざと ひろき 院長 **大里 浩樹** 高齢者医療管理センター長 **北村 大**
きたむら まさる

堺市立総合医療センターでは、2024年4月に高齢者医療管理センターを発足させ、多職種連携を軸に高齢者をトータルで診ていく体制を整備しました。今回は、その背景と効果、今後の課題について、大里院長と北村高齢者医療管理センター長のお二人にお話を伺いました。

多職種によるチーム医療

大里 近年、高齢者の患者さんが増加し、2022年には当院の入院患者さんは70歳以上の方が半数を超えました。この傾向は全国どの病院も同じです。高齢者はいろいろな合併症を持っていますので、1つの病気を治療するという従来の体制では解決できなくなっています。そこで、さまざまな領域の専門家が協力して総合評価し診療を行う組織が必要だと考えて高齢者医療管理センターを立ち上げました。

医療や治療だけではなく、患者さんが元々持っているフレイルや低栄養、認知機能が落ちているなどのリスクを評価し、介護の領域も含めて患者さんをサポートしないといけ

ないのが現実です。急性期医療を行うと生活機能が低下して自宅に帰れないこともあるので、多職種の視点で総合的に患者さんを支えていく仕組みです。

北村 実は、このセンターが発足する3年前から、高齢者医療専門の外来を作る準備をしてきました。一部の診療科・疾患の患者さんを対象に行っていた外来を一気に進めたのが高齢者医療管理センターです。リスクの高い病気を治療する場合、本当に急性期医療を受ける体力があるのか、それを支える家族の支援があるのか、その治療を受けることがハッピーなのか。その答えを見つけるために、必要に応じて多職種の人たちが連携して評価し支えて



大里 院長

いく体制が必要になったということです。

大里 これまでの治療中心から、治し、支える医療へ病院の方向性を転換しているのです。疾病に対して行う治療が、患者さんのさまざまな機能を低下させる因子になってしまっているケースもあります。医学が進んできたことにより入院期間が短縮していますが、その短期入院ですら患者さんの筋肉量が落ちたり、認知機能が落ちたりしています。

そのような患者さんを支えるためには、院内のリハビリ担当や管理栄養士、認知症のサポートチームなども含めて、関わりのある職種の人たちが連携してサポートしないと良い結果は生まれません。治療が逆効果になったりしないとは限らないので、多職種で支え合って「チーム医療」で患者さんを守っていこうと考えています。

北村 高齢者に関しては入院する前から、もしくは入院する段階から、ご本人だけでなく、生活背景や社会的支援、地域の医療機関との連携なども含めてケアすることで、良い転帰を迎えられるようにしないと、これからの医療は成り立っていかないと思います。

多職種連携の効果

北村 ある消化器系のがん患者さんの場合ですが、歩く距離、筋肉量、栄養の状態から見て手術が困難な方でしたが、外来の時点で多職種が事前に話し合い、手術前に2週間程度のリハビリ的な介入を行った結果、筋肉量がアッ

プし活力も出てきたので、安全に手術をすることができました。

他にも、手術をこのまま行うことにリスクが高いと考えた事例がありました。当院には特にリスクの高い患者さんに対して、専門のトレーニングを受けた医師、看護師による「周術期支援外来」があります。適切な説明と話し合いを行い、患者さんご家族の意思決定を尊重した治療計画が立てられるよう支援する場をもち、多面的にサポートします。可能な限り患者さんが希望する治療を受けられるよう支援する体制を整えたことで、無事に手術を乗り切ることができました。

大里 根本には「患者さんの尊厳を守る」姿勢がなくてはなりません。まず、ご本人の意思をしっかりと把握することが大切です。患者さんの認知機能が落ちると、ご本人の意思を確認することが難しくなりますので、代弁できるご家族を含めて、これからどのように過ごしたいか、どのように治療に向き合いたいのか、医療側のペースではなく、きちんと合意形成して患者さんを守っていかないといけません。

北村 意思決定について最近ではシェアード・デシジョン・メイキング（患者さんと医療者が共に決める医療）といって、医療者が患者さんやご家族の意向を大切にしながら話し合って意思決定を合意形成していくというやり方に変ってきています。患者さんの生き方を尊重したうえで、納得できる医療を受けられるよう、患者さんも医療者側も価値観の変換が求められています。



北村 センター長

医療機関・住民との連携

大里 今は医療と介護の両方を同時にやらないと患者さんを守ることができません。その意味で地域の医療機関や介護の人たちとの連携や課題の共有が不可欠です。堺市医師会では、医師と介護職の方が連携して地域の患者さんを守る「いいともネット」という交流の場を持っているので、そういう場でも発信していきたいと考えています。他にも、堺市が医療政策として進めており、当院が事務局機能を担っている堺市地域医療情報ネットワークシステム（患者さんの同意を得て、医療機関間で診療情報を共有し、診療に役立つ仕組み）を活用したり、地域の医療機関の先生方から当院に向けての要望や課題を議論する登録医総会を開催したり、医師が地域の先生方を直接訪問して、連携の在り方について意見交換をしています。

北村 医療機関としての取り組みも大事ですが、何よりも大事なのは、高齢者自身が普段から健康づくりに励んでいただくことです。当院では、堺市の協力のもと、市民向けに疾病予防とフレイル予防に関するイベントを開催したところ、参加者からは健康診断では得られないアドバイスを

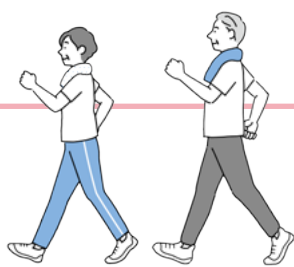
受けることができたという好評でした。今後も健康の増進と病気の予防に日頃から気をつけていただけるような取り組みを実施していきたいですね。

今後の課題

大里 高齢者医療管理センターの取り組みが患者さんにとってどのように役立っているのか、について情報発信していくことが大切になります。他の病院からも「いい取り組みだね」と認識していただいて、同じような取り組みが地域で広がればと思っています。

また、認知症の部分をもっと積極的に診ていけるようにしていく必要があります。もちろん認知症の専門医や看護師もいますが、高齢者率が上昇していく現状を踏まえて、チームの充実がさらに必要だと考えています。

手術などの治療を受けたあとは、リハビリや栄養管理、専門医の治療を経て、ご家族をはじめ、かかりつけ医・リハビリ施設・訪問看護などへ引き継ぐこととなりますので、院内の多職種連携の充実とともに、他の医療機関や介護施設などの方々とも連携する形が整っていくことが理想です。



疾病予防とフレイル予防



2024年3月にアリオ鳳で疾病予防とフレイル予防のイベントを開催しました。イベント参加者には、身体測定を通じて自身の身体状況（ロコモ・フレイル度）を認識していただき、健康について改めて見直すきっかけを提供しました。



多職種連携によるチームケア



急性期医療において、高齢者の割合は年々増加傾向にあり、今後も高度な医療を必要とする高齢者が増加することが予想されます。

複数の病気を慢性的に抱え、合併症を起こしやすいといった身体的な特徴がある高齢者は、入院が虚弱進行の要因となることもあり、ADL(日常生活動作)や認知機能などが低下し、自宅に帰れなくなることも珍しくありません。そのため、我々は高齢者の入院患者の機能障害の予防やADL(日常生活動作)の維持などを改善が重要な課題と

考え、身体に負担のかかる治療を受ける高齢者の患者さんを対象に多職種で総合的に評価し、介入する取り組みを2021年より行っています。

地域に根ざした病院をめざす当院は、高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために、治療後の生活状況を見据え、治療方針を重視した診療を行っています。

医師、看護師をはじめ、薬剤師、理学療法士、管理栄養士などさまざまな職種が連携し、より良いケアに結びつけ、安心・安全で心の通う医療を提供できるよう努めます。

…………… 高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくために ……………

安心・安全で心の通う医療を提供します



「チーム理念①」

リスクの高い治療に対し、より良い状態で治療が受けられるよう支援します。

75歳以上の予定入院患者を対象に
高齢者総合機能評価を実施

- 身体への負担の特に大きい治療を受ける方
- 生活・社会支援状況へのサポートを要する方

「チーム理念②」

退院後も専門職によるケアが継続できるよう、かかりつけ医・転院先と連携します。

かかりつけ医・転院先との連携

多職種連携によるチームケア

キッズイベント開催報告

2024年8月24日(土)に小学生を対象とした病院のお仕事を体験できるイベントを開催しました。

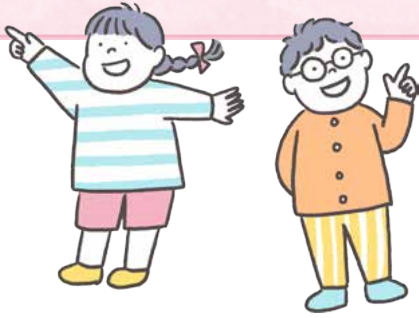


実際に医療現場で働いているスタッフから仕事の内容や簡単な知識を教わり、普段は経験できない医療の仕事を体験してもらうことで、働くことの意味や楽しさを感じ、子どもたちが自分の将来像を考えるきっかけになればと企画しました。

5種類(①救急体験 ②看護体験 ③薬局体験 ④検査体験 ⑤レントゲン体験)の中からいずれか1つの仕事内容を選んで体験していただきました。

子どもたちや保護者からは、「どれも初めて教わることで、夏休みに貴重な体験ができた」「また参加したい」「楽しく学べていい勉強になった」との感想をいただきました。





体験ブースポスター



救急体験

【高学年・低学年共通】

- ◎心肺蘇生
胸骨圧迫体験
- ◎AEDの使い方
- ◎ドクターカー見学
医療機器を搭載した車の中を見てみよう

救急体験



看護体験

【高学年・低学年共通】

- ◎赤ちゃんのお世話体験
沐浴・着替え・オムツ交換などのお世話体験
- ◎ベッドサイドの看護体験
音で分かる身体の調子♪聴診器でいろんな音を聞いてみよう
- ◎移送・手洗い技術体験
患者さんが安心できる車椅子搬送ってどうする!?
こんなに違う!? 看護師の手洗いを見てみよう

看護体験



レントゲン体験

【高学年】

- ◎3Dワークステーションを使用して体の中身を見てみよう
- ◎袋の中身を見てみよう（X線で観察）

【低学年】

- ◎これは何の写真でしよう? (CT・MRI 画像で観察)
- ◎袋の中身を見てみよう（X線で観察）

レントゲン体験



薬局体験

【高学年】

- ◎処方せんに合わせてお薬を準備してみよう
- ◎軟膏を軟膏壺に詰ってみよう

【低学年】

- ◎機械を使ってお薬をまとめてみよう
- ◎軟膏の重さを量ってみよう

薬局体験



検査体験

【高学年】

- ◎血液型を調べてみよう

【高学年・低学年共通】

- ◎顕微鏡で色々なものを見てみよう
- ◎いくら（セルブロック）を作ってみよう

検査体験

広報誌「ぞうさん広場」 読者アンケート実施中!

広報誌の内容を、よりわかりやすく充実したものにできる
よう読者の皆さまの声を聞かせてください。
いただきました貴重なご意見やご感想は、改善を図る
ための参考としますので、ぜひご協力をお願いします。



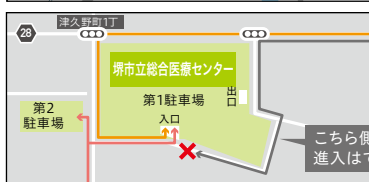
皆さまのご意見を
お待ちしております



アンケートフォームは
こちらのQRコードから



Access 交通のご案内



※当院駐車場へのご利用は一方からの
進入となっております。
※午前中は大変混雑しますので、第2
駐車場もご利用ください。

こちら側からは駐車場への
進入はできません

堺区・南区方面に送迎バスを運行中!

堺区ルート 19本/日 南区ルート 8本/日 **無料**
※平日のみ

スマホから送迎バスの位置情報がわかるようになりました

※位置情報管理システムは、一定期間の試験運用を行い、
継続運用すべきかを検討いたします

詳しくは、ホームページをご確認ください



バスでお越しの方

中もず駅前、石津川駅前、深井駅、泉ヶ丘駅、
若竹大橋、榎・美木多駅、堺東駅前

上記の南海バス停留所から、堺市立総合医療センター行きの
バスをご利用ください

電車でお越しの方

JR阪和線津久野駅 徒歩約5分

車でお越しの方

阪和自動車道「堺IC」より10分

阪神高速道路15号堺線「堺出口」高架道を出口まで進み
国道26号線より15分

駐車場料金のご案内

一般ご利用者(お見舞い等)	当日受診された方	手術付き添いの 患者さんのご家族等
最初の1時間 200円	5時間まで 200円	24時間まで 200円
最初の30分以内に出庫の場合は無料。以降30分毎に100円		当日受診された 障害者手帳をお持ちの方 無料



地方独立行政法人 堺市立病院機構

堺市立総合医療センター

SAKAI CITY MEDICAL CENTER

〒593-8304 大阪府堺市西区家原寺町1丁1番1号

TEL.072-272-1199

<https://www.sakai-city-hospital.jp/>